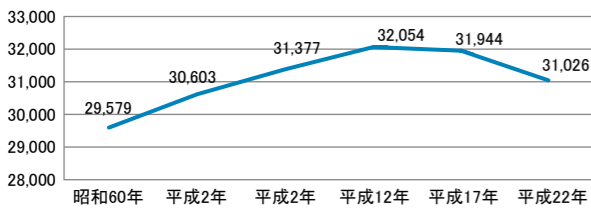


稲美町  
人口増加ストーリー

# 「親元に住もう！」 ～ある家族の選択～

●稲美町の現状

稲美町の人口の推移



町の人口は、平成12年まで増加していましたが、平成17年から減少傾向に転じています。(国勢調査)

「親元近居のすすめ」

人口減少が進む中、愛情や絆により結ばれた家族がその機能を維持するためには、保育や介護などを制度により社会で引き受け、同時に家族の一人ひとりの役割を見直すことが必要になります。哲也さんは親元近居という方法で、息子として、世帯主としての役割を果たし2つの家族の機能を維持しました。「親元近居新築住宅取得支援補助金制度」は家族機能を維持するために、また稲美町の人口増加に効果的な方法と思われる。



兵庫大学生涯福祉学部長  
田端和彦氏

年なんだからお互い助かると思  
うんだけど・・・。  
それに、あなただって、いつ  
でも敬太ちゃんに会えるわよ。  
一郎 そりゃ、敬太には会いた  
いさ・・・。  
和美 ちよつと、「広報いなみ  
4月号」に、「親元に住もう補  
助金」っていう制度ができたっ  
て載ってたの。いちご陽子さん  
に教えてあげるわ。

④ 哲也の家  
陽子 (電話) お母さん、「広報  
いなみ」送ってくださったってあり  
がとつてございます。あれ、とつ  
てもいい制度ですね。ちよつ  
と、敬太が来年から小学生にな  
るし、私も稲美町で家を建てた  
いなくて思ってたんです。今晚  
哲也さんが帰ってきたら話して  
みます。  
哲也 ただいま。  
陽子 (電話) 今、  
哲也さんが帰っ  
てきました。後で  
話してみます。



① ある日の昼下がり  
哲也 敬太、ゲームばかりして  
ないで、たまには外で遊んでこ  
い。  
敬太 だって、外は危ないから  
遊んじゃダメって、ママが言っ  
たもん。  
哲也 パパが子どものころは、  
田んぼやため池でよく遊んでた  
んだぞ。  
電話 プルル・・・  
陽子 あ、お母さん。えっ！お  
父さんが倒れたんですか。

② 病院の一室  
和美 あなた、哲也たちがきて  
くれたわよ。  
哲也 お父さん、お父さん！  
しっかりしなさい。  
敬太 おじいちゃん！  
一郎 うーん、あー、ここはど  
こや。お前たちどないしたん  
や。  
和美 畑で倒れて  
いるところを、通  
りかかった人が見  
つけてくれて救急  
車で病院に運ばれ  
たんよ。



③ 一郎の家  
和美 あなた具合はどう？  
一郎 ああ、今日は調子がいい  
みたいや。あんな、和美。  
和美 何ですか？  
一郎 哲也がまだ小さい頃、  
哲也 お父さんも年いってきた  
んやから、あんまり無理すんな  
よ。  
医師 そうやったんか。  
哲也 ちょっと疲れが出たんで  
しょう。今日一日様子をみま  
しょう。  
和美 お父さんも年いって来た  
んやから、あんまり無理すんな  
よ。

「僕、お父さんの畑に家を建て  
て住むねん、僕、稲美町が好き  
や」言うてたん覚えてるか・・・。  
和美 あら、哲也がそんなこと  
言うてたの。ちつとも覚えてな  
いわ。  
私、前から考えてたんだけ  
ど・・・哲也に「こっちに帰って  
きて家を建てないか」って言っ  
てみたらいつかしら。  
一郎 だけど、あいつは、今、  
係長になったばかりで仕事が大  
変な時だしな・・・。  
和美 でもあの子たちが隣に住  
んでくれたら、子育ても手伝っ  
てあげられるし、私たちももっ  
と

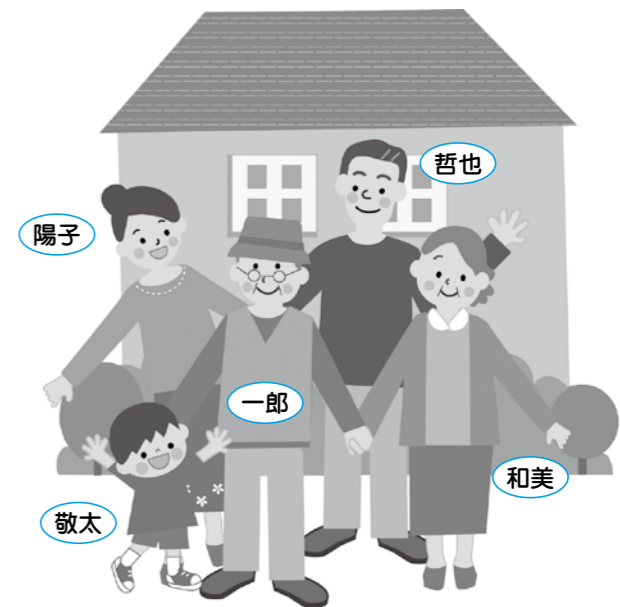
近年、全国的に人口が減少しており、稲美町も例  
外ではありません。人口が減少すると、町の活力が  
なくなるだけでなく、さまざまな面で生活しづら  
くなる原因にもなります。  
町では、現在人口増加を目指して様々な施策に取  
り組んでいるところです。さらに、今年度から新し  
く「親元に住もう補助金（通称名）」を設けて、親元  
に新築する子世帯を支援していきます。  
ぜひ、この機会に「親元近居」という生活を始め  
てみませんか。

ストーリー

稲美町生まれの哲也は、妻の陽子と一人息子の敬太  
の3人で、阪神間の賃貸マンションに暮らしている。  
哲也の両親は稲美町で暮らしているが、ある日、畑  
仕事をしていた哲也の父、一郎が突然倒れた・・・。  
※この物語はフィクションです。

物語の主な登場人物

- 哲也 (主人公 39歳)
- 陽子 (哲也の妻 35歳)
- 敬太 (哲也の一人息子 5歳)
- 一郎 (哲也の父 65歳)
- 和美 (哲也の母 63歳)



⑤ 夕食後  
陽子 あなた、「広報いなみ」  
の6ページを読んでみて。  
哲也 「親元に住もう補助金」？  
陽子 そう、稲美町の新しい制  
度なんだけど、親元で新築した  
ら18万円分の稲美町共通商品券  
がもらえるんだって。  
敬太も来年から小学生だし、  
思い切って稲美町で家を建てま  
しょうよ。  
哲也 建てるってどこに？  
陽子 あなたの実家の隣よ。そ  
れなら、お母さんに時々夕食を  
ごちそうしてもらえりし、あな  
たも時々食べたいでしょ。おふ  
くろの味。  
哲也 おまえ、ずつずついな  
く。そっからマイホームか！俺  
の部屋も欲しいな。  
陽子 あなたも自分の部屋なん  
で警沢よ！

から。それに、これからもっと  
親孝行もしないと。  
～一年後～  
⑦ マイホームの前で  
敬太 パパ、外で  
サッカーしよう  
よ。  
哲也 やっぱ稲  
美町に帰ってきて  
良かったな。  
陽子 稲美町って、緑が多くて  
空気がきれいだし、子育てする  
のにほんといいところよね。



⑥ 実家の畑  
哲也 お父さん、  
おれ、ここに家建  
てていいかな。  
一郎 おまえ、仕  
事は大丈夫なのか。  
哲也 稲美町からなら大阪まで  
通えるし、おれ、稲美町好きや



⑧ 稲美町役場窓口  
哲也 書類はこれ  
でいいですか。  
職員 はい、これ  
ですべて揃って  
います。後日、稲美  
町共通商品券18万円分をお渡し  
します。  
陽子 ありがとうございます。  
哲也 ほんと助かるわ。  
和美 良かったな。  
敬太 (隣の窓口にいる赤ちゃん  
連れの人を見て)  
パパ、ママ、ほくも弟か妹が  
欲しいな。  
おわり

